

自然のなかの自分を感じて

こばやし みなこ
小林 美奈子

●日本教職員組合・書記次長

暑さもやわらぎ、すっかり秋めいてきて、過ごしやすい季節となりました。

わたしの地元は、鈴鹿山脈の麓の田園風景が広がる地方にあり、四季の移り変わりを自然の様子から楽しめます。ちょうどこの時期、夜も深まるころに少し散歩して集落から離れると、澄んだ空気を感じながら満天の星を眺めることができます。

「今夜は、中秋の名月ですよ。東京でも見えますか？」と地元の友人から連絡があり、ベランダに出てみますと、夜空に雲から透けて見える月あかりを見つけることができました。しばらくすると雲の切れ間から、まぶしいほど輝く満月が顔を出しました。うっとり中秋の名月を楽しむ時を過ごしたのです。

我が家の子どもたちが幼かったころ、川原へスキを探しに行き、縁側に里芋とお団子をお供えして、お月見したことを思い出しました。今ではその子たちも、おかげさまですっかり大きくなりました。幼いころから季節を味わい楽しんできた年中行事の数々は、ささやかだけれど、子どもたちそれぞれの感性や生き方に、少しだけでも作用しているのではないかなと思っています。

地元にある教職員組合のある支部では、「星を観る会」という催しを毎年行ってきています。子どもたちに、体験を通して自然の不思議やすばらしさに触れてもらいたいとの願いからの試みです。これまでの会場は、その支部がある、地域の教育の拠点ともなっている教育会館の駐

車場だったり、学校の運動場だったりしたのですが、この回は、感染症拡大防止のために、オンラインでライブ配信を行っての開催となりました。

このときの観察は、部分月食。肉眼でも観察できますが、ライブ配信で観る天体望遠鏡を通した月食は、圧巻です。月面の細かな部分までも観察することができたのです。このときに添えられた天体の解説やインドの伝説、アポロ計画のお話も家庭に居ながら家族とともに映像を観て聞くことができたのです。

「月食は、最初すごくかけていたけれど、時間がたつにつれて満月になっていってすごいと思いました」と感想に書いた児童は、観察会のあと、自分の目で確かめたくて夜空を見上げて庭先へ出たのではないのでしょうか。別の日に、違った姿の月や満月を見た時、どんなことを思うのでしょうか。

感染症の影響を受け、やむを得ず形態を変更した観察会、天体望遠鏡を通したライブ配信での観察は、これまでとは一味違ったよい体験となったことでしょう。でも、でも、やっぱり次回には屋外での開催が望まれます。その季節や自然を感じながら、友達や家族、地域の人たちと集まってわいわい言いながら、普段にないその雰囲気味わいながらの観察会は、なにものにも代えがたい貴重な体験となることまちがいなしだからです。こういった活動をこれからも大切にしたいのです。